

優秀賞

うれしくて気持ちが「ほっこり」

山口県 久保小学校 三年 武智春香

「どうしたん。元気ないけど、かぜひいたの。」

「きのうから、のどがいたくてこんな声になりました。」

「むりせんことよ。」

「はい。」

私の学校では、学校まで45分の道のりを、1年生から5年生が一人ずつと、6年生の班長がひとつのグループとなり、歩いて登校します。毎日、一人ひとりに声をかけてくださる、小田さん。一学年上の男の子のお父さんです。

公園に集合して、学校までの通学路を雨の日も、雪の日も、汗がだらだら流れる暑い日も、元気いっぱいの日も、少し元気がない日も、どんな日も私たちの登校班といっしょに学校まで歩いてくださいます。

ある日、入学したばかりの一年生の男の子が、私たちの登校班の班長でもある姉に、

「おねえちゃん。おなかが、いたくてトイレに行きたくなったよ。」

と、泣きながら道にうずくまり、歩けなくなってしまったのです。

姉は、子ども110番のことを思い出し、

「もう少し歩くと、公民館があるから、そこまでがんばろうや。」

と、男の子に声をかけました。

すると、それを聞いた小田さんが、走ってきて、姉にかわりその男の子といっしょに、少しはなれた公民館までつきそってくださったのです。歩けなくなった男の子を見て、とてもしんぱいでしたが、小田さんに助けられ、ぶじに公民館まで行く男の子を見ながら、私は心の中で、

「小田さん、ありがとうございます。」と、言いました。

いつもやさしく、ときには私たちのためを思って、きびしく注意してくださる小田さんのおかげで、不安なく安全に楽しく登校できることが、なんだか、うれしくてうれしくて、気持ちが「ほっこり」温かくなりました。

その日、家に帰りお母さんとお父さんに、朝の登校のときにあったこととお話ししました。

小田さんは数年前から、毎朝お休みすることなく、登校班と歩いて学校まで行くことを続けておられると母が教えてくれました。とてもすごいことだと思いました。

「おはようございます。」

と、朝のあいさつをしますが、いつの間にか、

「おはようございます。ありがとうございます。」

と、自然に言葉が出るようになりました。

それは、小田さんのやさしい行動、親切な心やすがたが、登校班のみんなに伝わったのだと思いました。

私は、小田さんから親切な心や、やさしい気持ちを教えてもらいました。小田さんをお手本に、小さなことでも、親切ができる人になりたいです。今日も、登校班が元気よく、小田さんといっしょに出発します。

「小田さん、おはようございます。いつも、ありがとうございます。」